

子どもの学力と信頼ゲーム*

田村 輝之^{a,b}、島田 夏美^{c,d}、中村 亮介^e、池本 駿^{f,g,h}、赤林 英夫ⁱ

2020年1月21日

要旨

本論文では、経済学における「信頼ゲーム」を実験課題として、子ども（小学3年生～中学3年生）の学力と、信頼ゲームの実験結果との関連性を分析した。子どもの学力を測るテストとしては、慶應義塾大学において実施される「日本子どもパネル調査 (JCPS)」の算数と国語の問題を使用した。本論文で得られた主要な結果は、子どもの利他性の度合いをコントロールした上でも、算数のテストの正答率が高い子どもは、「信頼」(Trustor が送付する金額) および「信頼性」(Trustee が送付する金額) の送付金額が、統計学的に有意に下がる結果となり、伝統的な経済学が仮定する合理的な行動により近づくことである。

キーワード：子ども実験、信頼ゲーム、信頼

JEL コード：C91、C90、I20

* 本研究は、JSPS 科研費 JP16H06323 の助成を受けたものです。

^a 京都経済短期大学経営情報学科

^b 責任著者 e-mail: tetamura@gmail.com (田村輝之)

^c 筑波大学大学院システム情報工学研究科

^d 慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター

^e 福岡大学経済学部

^f 慶應義塾大学大学院経済学研究科

^g 慶應義塾大学産業研究所

^h 公益財団法人 三菱経済研究所

ⁱ 慶應義塾大学経済学部